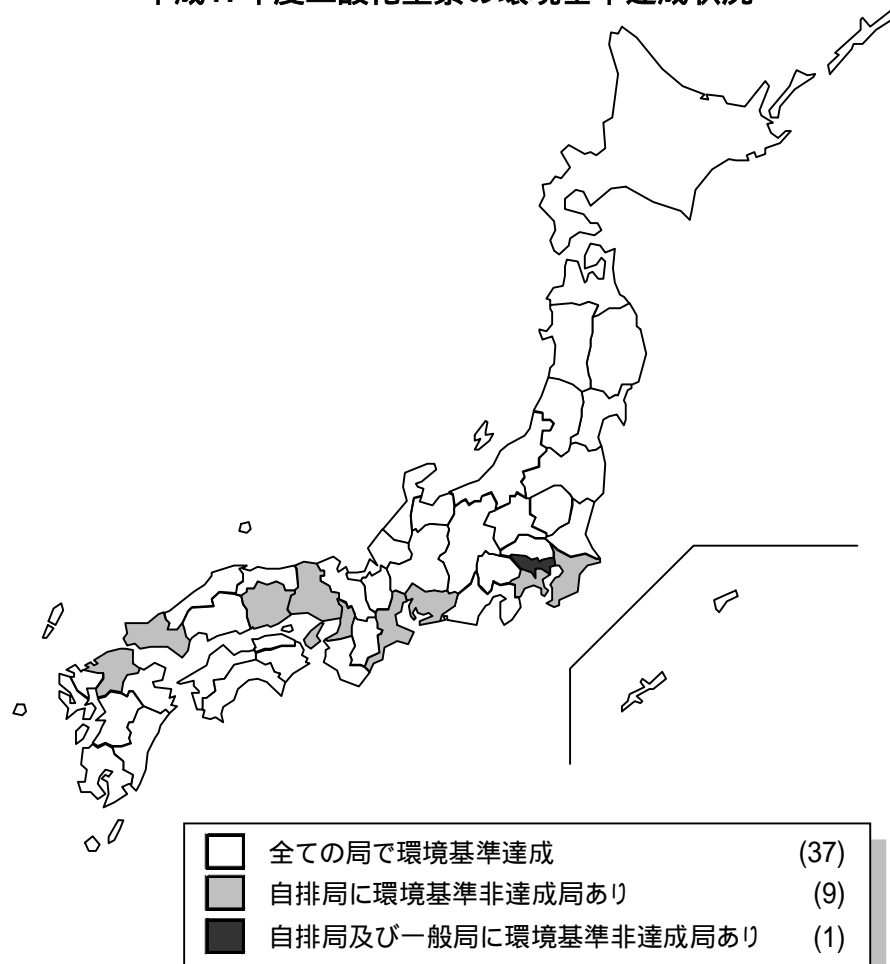


美しく環境に配慮した都市づくり（その1）

- 自動車に起因する局地的な高濃度汚染 -

平成17年度二酸化窒素の環境基準達成状況



自排局：自動車排出ガス測定局

注1：()内は都道府県数を示す。
注2：和歌山県は自排局なし

出典：環境省「平成17年度大気汚染状況報告書」より作成

➤ 自動車排出ガスに起因する二酸化窒素、浮遊粒子状物質（SPM）による大気汚染については、全体として改善傾向がみられます。

➤ しかしながら、大都市圏を中心に環境基準を達成していない測定局が依然として残っている状況にあります。

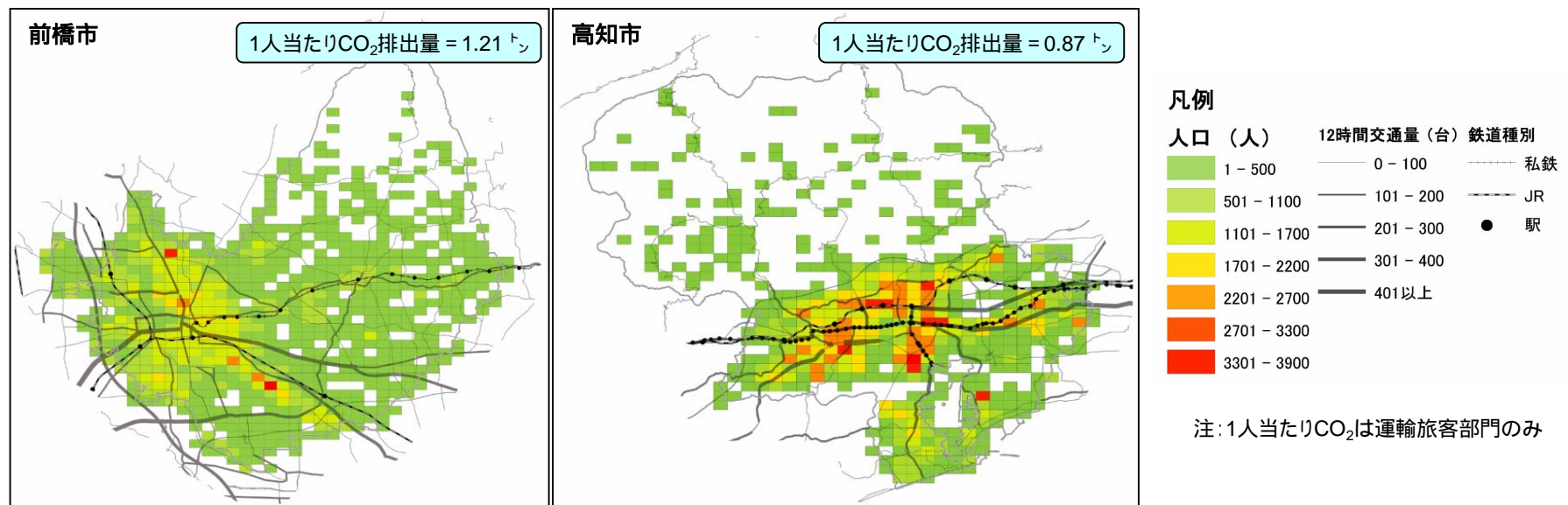
➤ このため、環境基準非達成地域における大気環境を早期に改善し、環境基準の達成を確実なものとするため、局地汚染対策や流入車対策など、自動車排出ガス対策の一層の推進が求められています。

美しく環境に配慮した都市づくり(その2)

- 都市の郊外化による自動車依存率の増加 -

- わが国の都市では、その周辺に住宅を中心とする低密度の市街地が郊外に薄く広がるとともに中心市街地や地域コミュニティの衰退などが生じる都市機能の拡散が進んでおり、環境にも大きな影響を及ぼしています。
- 例えば、面積と人口がほぼ同じ規模である前橋市と高知市を例に見ると、低密度の市街地が広がっている前橋市の方が、自動車の依存率が高くなっています。この結果、運輸旅客部門の1人当たり年間二酸化炭素排出量を比較すると、高知市の0.87トンに対し、前橋市では1.21トンと、約4割多くなっています。都市機能の拡散が、運輸部門からの二酸化炭素排出量を増加させた大きな要因の一つとなっていると考えられます。

前橋市・高知市の人口分布と都市交通



出典:総務省「平成12年度 国勢調査地域メッシュ統計」、2005財団法人日本デジタル道路地図協会、
国土地理院「数値地図25000 (空間データ基盤)」より環境省作成

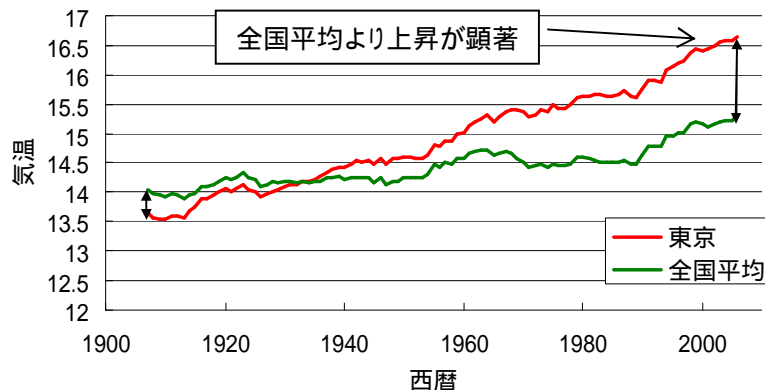
美しく環境に配慮した都市づくり(その3)

- ヒートアイランド現象 -

- 過去100年に、地球全体の平均気温が約0.74 上昇しているのに対し、日本の大都市においては平均気温が概ね2~3 上昇しています。
- 地球の温暖化の傾向に比べて、ヒートアイランド現象の進行傾向は顕著です。

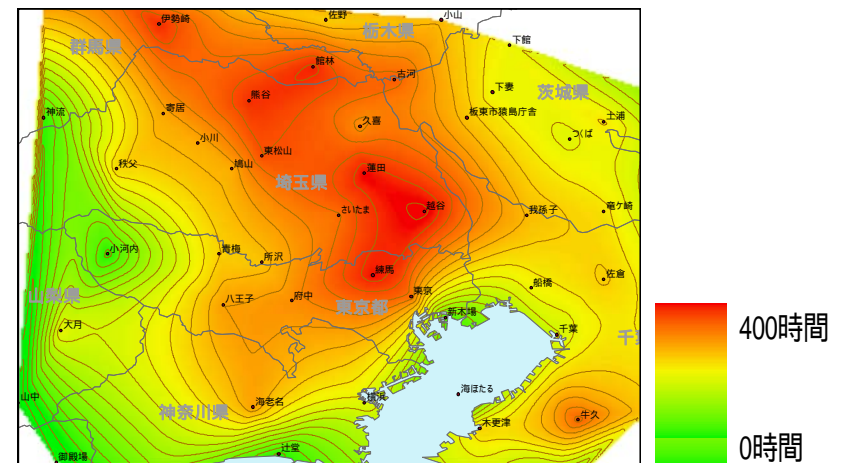
日本の大都市の平均気温(気象庁統計情報より)

地点	使用データ 開始年	100年当たりの上昇量(/100年)				
		平均気温			日最高気温 (年平均)	日最低気温 (年平均)
		年	1月	8月		
札幌	1907年	2.4	3.3	1.0	0.9	4.1
仙台	1927年	2.2	3.1	0.3	0.7	3.1
東京	1907年	3.0	4.1	2.0	1.7	4.1
名古屋	1907年	1.8	2.0	1.5	0.9	2.7
京都	1907年	2.6	2.6	2.4	0.7	4.0
福岡	1907年	2.7	2.4	2.1	1.2	4.5



東京と全国の気温(10年移動年平均)の推移比較(気象庁統計情報より)

10年移動平均とは基準年を含めて過去10年以前の平均値をとったもの



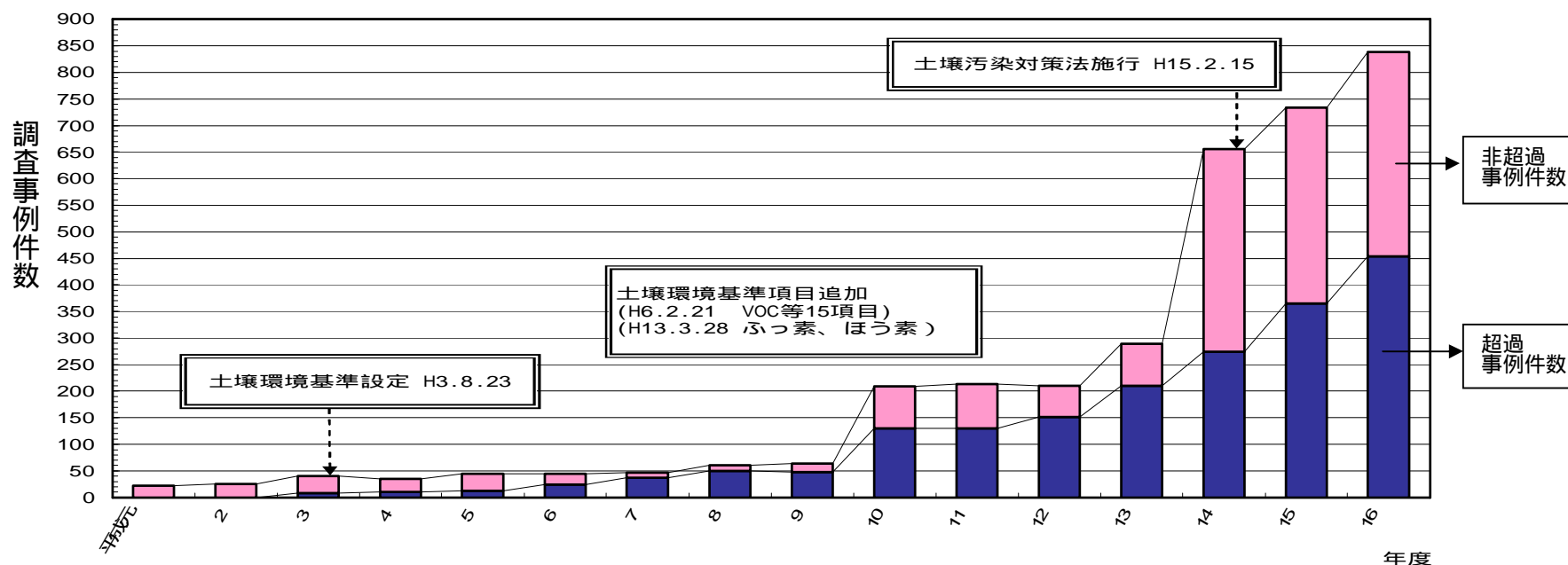
関東における30 以上時間数累計(2005年)

(出典:環境省)

美しく環境に配慮した都市づくり（その4）

土壌汚染地再生による良好な都市間環境の創造

(注) 土壌汚染対策法適用以外を含む



我が国での土壌汚染判明事例数は年々増加している

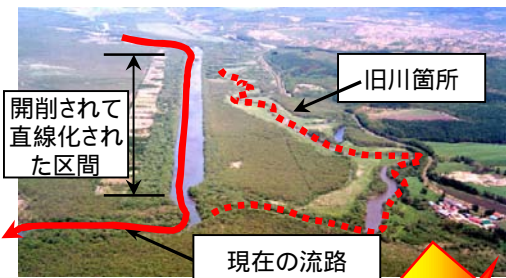
今後、土壌汚染の存在あるいはその懸念から土地の利活用が進まない、いわゆるブラウンフィールド問題が社会情勢によって深刻化する可能性があり、土壌汚染地再生による良好な都市環境の創造のための取組が必要

豊かな水辺づくり

地域の自然・歴史・文化を
活かした水辺づくり



生物の生息・生育・繁殖
環境等を保全・創出する
多自然川づくりの例



自然再生事業により蛇行河
川を復元する例



健全な水循環の回復等による
豊かな水辺づくり



水質の改善により、美しい水環境を
取り戻し、観光の名所となった例



歴史的町並みと川が一体となった
魅力ある水辺環境の例

緑豊かな国土の保全に向けた美しい森林づくり

～ 森林の現状 ～

森林は、国土の3分の2を占めており、国土の保全、水源のかん養、地球温暖化防止、生物多様性保全等の公益的機能を有しているが、林業の採算性の悪化や山村の活力低下に伴い、間伐等の施業が十分に実施できないこと等による森林の公益的機能の低下が懸念されている状況。

～ 森林・林業に関する新たな「兆し」～

育成林を中心に資源が充実する中、国際的に木材需要が増大しており、近年、輸出への取組、木材自給率の向上など新たな「兆し」が見られる状況。

・丸太輸出の推移

H13: 2,191m³

H18: 30,388m³(10倍以上)

・木材自給率

H16: 18.4%

H17: 20.0%(好転)

「美しい森林づくり推進国民運動」を推進

目標 ・育成林における適切な間伐の実施
・針広混交林化、長伐期化、広葉樹林化等多様な森林づくりを推進

内容 ・国産材利用を通じた適切な森林整備
・森林を支える生き活きとした担い手・地域づくり
・都市住民、企業等幅広い森林づくりの参画

林業の再生を通じて適切な森林の整備・保全を推進するチャンス

